

HAMADA 教育魅力化コンソーシアム 令和4年度第1回役員会 議事録

- 日 時 令和4年5月30日(月) 15:00~16:40
- 場 所 浜田市立中央図書館2階多目的ホール
- 出 欠 出席役員15名(欠席役員1名)
- 結 果 会長、副会長及び監事の選任について・・・・承認
- ・会 長：岡田泰宏(浜田市教育委員会 教育長)
 - ・副会長：志波英樹(島根県立浜田高等学校 校長)
 - ・監 事：田村洋二(浜田商工会議所 専務理事)
 - ・監 事：山川俊二(石央商工会 事務局長)
- 令和3年度事業報告、決算報告、監査報告・・・・承認
- 令和4年度事業計画(案)について・・・・承認
- 令和4年度事業予算(案)について・・・・承認

主な意見等

[会長あいさつ]

会長に選任いただいた教育長の岡田です。

さて、この教育魅力化コンソーシアムは、子どもたちが地域に愛着を持ち、将来、地域や社会に役に立ちたい、そう思ってもらうことを大きな目標として活動している。

また、地域においても子どもたちが地域活動等に出てきてくれることで子どもたちの元気をもらえるような学校づくり、地域づくりが進んでいければと思っています。

こうした中、昨年度はこのコンソーシアムにおいて具体的な取組が進んだのではないかと個人的には思っている。

例えば、教育課程内の授業で高校と地域の皆さんが顔を合わせて、対話を行うといった取組も行われ、特別支援学校においても、普段、どのような授業が行われているのか、といったことを地域に発信できる場面を設けることができた。

そして、何よりも HAMADA 教育魅力化フェスタにおいて、高校生が頑張ってきた成果を動画にまとめて配信することができたこと、この動画の編集を浜田商業高校 IT 商業研究部の生徒の協力を得て実現できたということで、1年目としては本当に大きなスタートを切ることができた。

更に、高校に限らず、高校生や大学生においても地域とともに活動するという流れが加速している。そうした高校生や大学生の活躍を中学生、小学生が見て憧れ、そんな人になりたい、思ってくれることを期待しているところである。

これが今後、幼稚園の園児においてもそうした憧れの連鎖として広がってい

く、このような地域ができることを望んでいる。

それでは、この後の事務局からの報告や説明について、役員の皆さまの忌憚のない意見をいただきたい。

[令和3年度事業報告、決算報告、監査報告]

事務局より資料に基づき事業報告と会計報告を一括して行ったのち、山川監査から監査報告を受けた。

これに対して、役員からの質問や意見はなかった。

[令和4年度事業計画（案）、事業予算（案）]

事務局より資料に基づき事業計画（案）と事業予算（案）を一括で説明した。

事業計画の説明の中で、各県立高等学校の校長より、グランドデザイン（学校運営方針）に基づき、島根県教育委員会の交付金を活用して各学校で行う事業内容についての説明を受けた。

○役員からの意見・質問

■はまだっ子共育運営委員会会長

市内の小中学校はまだコミュニティスクールが導入されていない中、特別支援学校のところで学校運営協議会を運営しているという表現があった。県立高校においては、今後、学校運営協議会が全学校に導入されていくのか、確認したい。

（副会長（浜田高等学校）回答）

島根県では、令和4年度から令和5年度にかけて全ての高等学校に学校運営協議会を設置することになっている。今年度、設置を既にした学校もあれば、来年度設置へ向けて今年度検討している学校もある。

なお、浜田高校、浜田商業高校、浜田水産高校も来年度から発足する予定としている。

■はまだっ子共育運営委員会会長

特別支援学校に導入された「学校地域協働推進員」とはどのようなものか。共育では地域学校協働活動推進員というのが文科省であるが、これはどういう方が就任しているのか。

（浜田養護学校校長 回答）

今年度から特別支援学校においても高校の魅力化コーディネーターのような外部の人材を雇用することができるようになった。ただ、年間、170時間程度の本当に短い時間での勤務となっている。名称について、浜田養護学校、浜田ろう学校では、「連携コーディネーター」としている。

■はまだっ子共育運営委員会会長

高校は、高校における教育活動の中で地域と連携しながら行うが、コンソーシアムにおいては、高校の教育活動や高校における教育活動の評価とは切り離れた形として、地域と生徒が行う活動として別の柱があると思う。その際、そこに関わる地域の人たちのユースワークに関する学習の必要があると思っているが、そのための予算はあるのか。

(事務局 回答)

昨年度のように勉強会という個別事業として予算計上していないが、それぞれの個別事業の中で、大人側を対象とした勉強会の経費を計上している。

■浜田市中学校校長会

コンソーシアムの理念や目的を実現するため、小学生や中学生が高校生ともに活動したり、体験したりできる事業をもう少し増やしてはどうか。

また、コンソーシアムだよりを拝見するなかで、「学校×地域」だけでなく「学校×地域×小中学校」も入っていて、こういうところがいい、と思う。

ノドグロ給食を昨年度出していただいて、実際に作業を見学した訳ではないが、DVDで各学校全校生徒が見た。高校の様子や高校生の頑張っている様子が分かった。中には、将来、水産高校に進学したい、と思った生徒もいたのではないかな。

更に、まちづくりセンターでの行事に、中学生や高校生、大学生も一緒になって活動している。コンソーシアムが高校だけでなく、小学校、中学校にも少しずつ輪が大きくなっていくことが望ましい。

(会長 回答)

学校それぞれの取り組みを見ていても、例えば部活動単位で地域ボランティアを実践していこうとか、あるいはまちづくりセンターと組んで何か仕掛けをしていく時に、小学校、中学校を含めて一緒にできる活動を意識してもらえるといいのかな、と思っている。

校種が違う子どもたちが一堂に会して体験するようなことは意識して仕掛けていかなないとなかなか実現できないと思っているので、貴重な意見だと思っているので受け止めさせていただく。

■浜田高等学校校長

コンソーシアムとしての目標数値の説明の中で、浜田市教育振興計画の「教育魅力化推進事業」を挙げられたが、浜田市としての事業とコンソーシアム事業との関わり、例えば、浜田市の教育魅力化推進事業の中で、コンソーシアムにお金が出ているのか、ということや、どのくらいの予算組をして、どのような事業を実施しているのか。

また、今年度から高校魅力化コーディネーターが増員され、その2名に新た

な役職として高校魅力化コンソーシアムマネージャーが追加された。コンソーシアムの予算には、高校魅力化コンソーシアムマネージャー兼魅力化コーディネーターの person 費が計上されていないが、どこに計上されているのか。

(事務局 回答)

コンソーシアムと浜田市の関係性について、そもそも県立高校では、高校魅力化を進めるにあたり、コンソーシアムの設立が前提となっており、基本的に島根県東部の学校のように1高校1コンソーシアムでの設置となっている。

しかし、浜田市の場合は、各学校と協議をする中、現段階で学校単位での設立は困難ということで、浜田市が事務局となって3校まとめて作ろうという形で話がまとまったと聞いている。その結果、浜田市が事務局を持って令和3年3月16日にこのコンソーシアムが設立された。

このコンソーシアムの事務局を浜田市が担当することから、市としては、昨年度コーディネーター1名を浜田市の職員として半分は県の交付金、半分は市費を活用して雇用し、コンソーシアムに配置している。今年度さらに1名増員し、市の費用負担は増えているが、こうした部分を「教育魅力化推進事業」で対応している。このため、コンソーシアムの予算には person 費を計上していない。

また、事務局事業に係る経費については、県交付金の中から共通事業分として各学校から捻出していただいているが、市としても、コンソーシアムの運営に係る経費を補助金として支出している。例えば、専門家からのアドバイザー経費もその補助金に含まれている。

■浜田高等学校校長

コンソーシアムだよりは、地域の人や中学生に知ってもらおうPR効果が高いと思う。浜田高校では、浜田商業高校のように学校通信を毎月発行できれば良いと思うが、出来ていない。是非とも生徒募集の意味も含めて、コンソーシアムだよりを11月ではなくもう少し早い段階で発行して欲しい。6月7月の行事のことが載っているのも、もう少し早く出せると生徒にとっても進路選択にもつながるのではないかな。

また、生徒募集的な意味合いの紙面づくりをしていただきたい。

(事務局 回答)

市としても、市内進学の向上を目指している。年2回の発行ではあるが、この部分は今後の中学校の進路スケジュール、各高校の思いもあるので、最終的に子どもたちの選択としていい形で情報が行くよう、各学校と相談させていただき、早めの発行を心掛けたい。

なお、令和4年度も予算上、年2回の発行を予定しているので、子どもたちに良い情報が届くような紙面づくりにも努めたい。

■浜田高等学校校長

県交付金について、令和3年度もコロナの影響で事業が実施できず、未執行の交付金を県に返還している。今年度もそうした懸念がある中、事業の組み換えなど、様々な形でもっとこの交付金を有効に使えるようなことを年度途中に考えたらいいのではないかと、思っている。浜田高校も理数科など、大会に勝ち上がらないと使わない経費もある。

県交付金は、予算の組み替えなど、柔軟に使えるものなのかどうか、また、可能な場合、どのような手続きが必要なのか、などご説明いただきたい。

(事務局 回答)

県の交付金は、事業計画を提出し、県の承認を受けて活用しているもので、事務局では、交付金を有効に活用していただけるよう、交付金の運用マニュアルを作成し、各学校に示している。

このマニュアルの中で、事業の組み換えや予算配分の変更等についても説明している。

既存の事業を変更する場合はまず事務局に相談していただき、その内容に応じて、変更申請が必要なもの、事務局の裁量で承認ができるものなど分けている。よって、基本的に事業の組み換えは対応可能である。

[その他]

事務局より、市内中学校の令和4年3月に卒業した生徒の進学状況について説明を行った。

○高校の進学率等に係る意見・質問

■岡田会長

ただいま、事務局から進学状況について説明があった。中学校についてはヒアリング後の対応ができていないので、そのヒアリング内容と今回の状況とを照らし合わせて、可能なら高校と中学校のメンバーでワーキングのようなことをして情報交換、意見交換してはどうか。

地元の県立高校への入学者を増やしていくということがコンソーシアムとしての大きな目標の一つにもなっているので、その辺の仕掛けは事務局にお任せする。

(事務局 回答)

提案いただいたワーキングについては、学校と相談しながら進めたいと思う。中学校、高校ともに先生方は多忙ということもあり、それぞれの学校の意見を聞きながら丁寧に対応していきたい。

■浜田市中学校長会

進学状況に関する表について、市内の人数に定時制、通信制も入っていない

い。また、特別支援学校にも市内からたくさん進学しているので、市内の進学率にこの部分も加えて欲しい。

(事務局 回答)

島根県の調査資料を活用して資料を作成している。県の調査では、例えば通信制の進学について、浜田高校の通信制なのかが不明ということもあるので、今後は精査しながら対応したい。今後の資料作成に際して、意見を参考にさせていただく。

■ 浜田市小学校長会

ノドグロ給食の取組は、小学校でも子どもたちの心に響いたと思う。理由としてはやはり間に物があるというのは強いなと思う。商業高校にしても水産高校にしても物があって、その物を喜んでもらうという目的がはっきりしている。意欲を持ってやってくれているのだろうなと伝わってくる。

数年前に感動したのが、帰省できないあなたに贈る浜田からのメッセージという動画が取り上げられていて、探っていたら商業の生徒さんが作ったものだった。

浜田から県外に出てコロナで帰れない人達へのメッセージを作って YouTube にあげていた。これはコンソーシアムとは関係ないが、意欲を持って浜田を愛しているから伝えたいという目的意識がはっきりしている。生徒自身の中から出てきて作ったのだなと思った。

浜田高校にもいろいろなことに精通している生徒も多いだろうから、目的をはっきりさせて、意欲をそっちに向けて、予算の使い方もはっきりさせると、もっと大きいことを子どもたち自身からやっていけるのではないかと思う。

[岡田会長まとめ]

委員の皆さんについては、各団体の長として参加していただいているので、本日の役員会での意見も参考に、それぞれの団体においても教育の魅力化に向けた取組をお願いしたい。

それでは、以上をもって令和4年度第1回役員会を終了する。

以上